

最優秀賞

神奈川県共同募金会会長賞

支え、支えられる社会へ

伊勢原市立伊勢原中学校

三年 森住 芽依

「手えあつたかいねえ」

私はある日おばあちゃんにこう言われました。

私のおばあちゃんは、昔はいろいろなおいしい料理を作ってくれて、外に出た時には猫が何匹もおばあちゃんのうしろをついていくような元気なおばあちゃんでした。だけど今は体調があまりよくなって、介護施設に入院しています。そんなおばあちゃんと面会できる、と聞いた時は、入院してから会える機会が少なくなっていた私はすごく嬉しくなりました。

少しばかり緊張しながら施設内へ入り、おばあちゃんの部屋へと向かいました。部屋に入ると、弱々しくおばあちゃんが寝ころんでいました。あいさつをすると、「めい来てくれたの。

ありがとうね。」と名前を覚えてくれていたので、今すぐに抱きつきたくなくなるほどに嬉しかったです。手を差しのべてきたので、にぎってほしいのかと思つて私はおばあちゃんの手を包みました。今までたくさん料理を作つてみんなを喜ばせてくれた手。たくさんはたらいてくれた手。私をなでてくれた手。みんなを支えてきた手。私はゆつくりとずっとにぎつて今までのことを思いかえしながらおばあちゃんの優しい温もりを感じていました。

にぎっているとおばあちゃんが私にこう言いました。

「手えあつたかいねえ」

私はすぐにおばあちゃん目を見ました。おばあちゃんは昔のような目にしわをよせる笑顔で、やさしく私を見てくれました。見守つてくれたおばあちゃんの眼差しはとても温かかったです。私はこの時、おばあちゃんには私の温もりがちゃんと伝わっていたんだと感じ、胸がいっぱいになったのを今でも鮮明に覚えています。

帰る時、幸せそうな表情でおばあちゃん手を振ってくれました。部屋のそばに立つている施設の方の前を通り過ぎる時に、いつもこのような方たちが支えてくれるからおばあちゃんは今でも幸せそうなんだ、と感じました。私はその人に感謝を伝えたあとも、支えるっていいなとずっと考えていました。

高齢者の方は、日々家族や友人、施設の方たちなど、さまざまな人に支えられて幸せに「今」を過ごしています。だから私もこれを全力でサポートしたい、支えたい、と思います。

将来、どんな仕事に就くのか、高齢者の方と関わる仕事をするのか、全く関係のない仕事

をするのか、これからのことなんて、まだ誰にも分かりません。だけど私は、どんなことでも「誰かのため」になる仕事をしたいです。これを通して今回おばあちゃんがしてくれたように、人を幸せにして、何かを伝えられるような人になりたいなと思いました。

今日は少子高齢化の時代。そのため、高齢者介護、福祉のあり方が現在の社会の課題です。だから今は若い人、つまり私たちが高齢の方を、社会を支えるべき立場だと思っています。逆に考えると、未来では私たちが支えられる立場になります。その時のため、そして今を生きる高齢者の方のため、ほんの小さな事からでも何かを「支える」ということをしていきたいです。それがめぐりめぐって誰もが、「支え、支えられる」社会をつくっていったら幸せだな、と思います。